

ざいしやわばらぬ 野草地の草地改良

(3) 堆肥団子法（塊状点播法）

わが国で、牧野と呼ばれているものの大半は、野草地

です。酪農を盛んにするためには、この野草地を改良し、質量ともに優れた、良い牧草地へ切り替えて行かなければなりません。

そして、この切り替えは、機械力によらず、個人や部落共同で行う場所が多く、着手すれば、案外容易にやり遂げることができます。効果がハッキリと現われます。

草地改良のための準備

- 1 悪い草、特にイバラや毒草を除去する。
- 2 消石灰や炭カルを散布し、酸性を矯正する（石灰岩の粉末の方が永持ちしてよい）
- 3 土壤流亡の多い裸地へは、先ずメドハギ、ヤハズソウ、バーベットドレフオイル、ウイピングラブグラス等、先駆作物を入れる。

右のような準備態勢を整えてから、その土地に適する草地改良の方法を選びましょう。

独力で出来る簡単な草地改良の仕方

(1) 普通追播法

デスクハロー、マンガード等で、地表を浅くかき荒し、牧草を播種後軽く覆土、または鎮圧しておこな方法。河川敷、畦畔、シバ型野草地の改良に適します。

(2) クロレートソーダによる追播法

笹枯しで有名なクロレートソーダの水溶液で、野草類を枯らし、二、三週間後(1)と同様に行なう方法。笹やチガヤの生えている野草地で特に効果があり、薬剤費が高くつきあるいはあるが、地表処理をしやすく、確実な方法です。

暑さにも寒さにも強い

オーチャードグラス

原野、雜木林地など、地表かき荒し処理のしにくい所とか、瘠地に適し、急速確実に牧草導入ができます。

団子の作り方は全堆肥を二等分し、イネ科とマメ科の種子を別々にまぜて化学肥料は速効性のものを少量まぜるようにします。

(4) 帯状耕起法

堤塘や急傾斜面で行なう方法で、法面と直角の方向に二〇~三〇cmくらいの幅で、横に帯状耕起し、肥料を施して、播種、覆土、鎮圧を行うものです。この場合にイネ科、マメ科を混播すると、交互に単播するのと二方法あります。

草地改良実施上の注意

○時期は早春か中秋が適切で、雜草野草の草勢の弱い時に行なべきです。関東以北は四月上旬~下旬、暖地では三月上旬~下旬。

赤クロバーの品種と特性

ケンランハンド

南洋型炭疽病の抵抗性品種として育成された赤クロバーで、収量多く、再生力も旺盛、耐暑性もある中生の優良品種。

マングス その名の如く、茎葉花とともに大型で毛茸多く、晩生種。年間の刈取回数は少いが、収量多く、生存年限も長い良い品種です。

メジウム 在来種と同様の早生の純粹種で、早刈場合や寒冷地の一~三度刈り適種。

アルタースエード マンゴスより更に晩生種で再生は遅いが、一回の収量多く、多年性赤クロバー、寒冷地一回刈用。

高冷地、寒地の草地へ雪印改良チモシーを
(寒さに強く、葉が多く、家畜の好む多収優良品種です)

夏の暑さにも、冬の寒さにも負けず、土壤を遷ぼず、いつも青々と生育するオーチャードグラスは、イネ科牧草界の、いわば宮沢賢治氏にもたとえられる優れた牧草です。南から北まで（九州の一部を除く、たいていの草地に組入れられ、常に主要構成員として活躍しています。

オーチャードグラスは、生育・再生が早いので、下葉のムレない中に早刈するのが得策です。大きな株になつて耕鋤しにくいか乳牛が好んで喰わない等の原因は、すべて刈遅れによつて生ずるもののです。

○雪印改良オーチャード

在来種より約二週間晚生の三~四割増収種で、出穂期が赤クロバーの開花と合いで暖地に多い雲形病に強い優良品種です。

○土壤が乾燥ぎみの時には、種子の発芽が非常に損われますから、雨後か、降雨を見はからつて行なうこと。

○施肥量は硫安（石灰窒素）二〇kg、過石（熔燐）三〇kg、硫酸一〇kgくらいが適當で、括弧内の速効性の肥料は、永続性があります。

（またせつから改良草地ができるても、十分な追肥を行なはず、年々刈草を持ち去ることは、掠奪に等しく、再び、地味は低下し牧草は姿を消し、元の野草が勢力を得てきますから刈取度毎くらいに追肥が必要です）

○改良実施直後、雜草野草の繁茂が著しい場合には、二回の掃除刈が必要で、牧草が負けないようにすること。追肥しながら頻繁に刈取を行なえば、野草はへり、再生力の強い牧草の生育が目立つてきます。手間を惜しまず刈取り、肥料を惜しまずに施すことが草地改良成功のカギです。

